

# 洞窟性のクモ

西川 喜朗 (NISHIKAWA, Yoshiaki 追手門学院大学所属 大阪府在住)

## 1. 洞窟内では最上位の消費者、クモ

洞窟内での暗黒部には、有機物の生産者である光合成をおこなう植物はいない。したがって、洞窟内に生息する生物たちは、洞窟動物や生物の遺体や排泄物を栄養源としている菌類と肉食性や腐食性の動物だけで、きわめて特殊な生態系を保っている。

洞窟内の食物連鎖は、このようにコウモリの糞(コウモリグアノ)や生物遺体に始まり、トビムシ類、ヤスデ類、チビシデムシ類、ハエ類、菌類、それらを食べるゴミムシ類などの昆虫類、そしてクモ類へと続く。

クモ類は暗黒の洞窟内で、クモの巣(住居のアミ)の糸を利用して小動物を捕獲することができるので、洞窟内では食物連鎖の最高位の消費者とみなすことができる。

よく見られる種。国内外にひろくみられる種。  
・落ち葉や石ころの下——ヤチグモ類やナミハグモ類：体長4～8ミリ。茶褐色で腹部背面にうすい山形斑のあるものが多いが、洞窟性の淡色の種は洞奥にもいる。

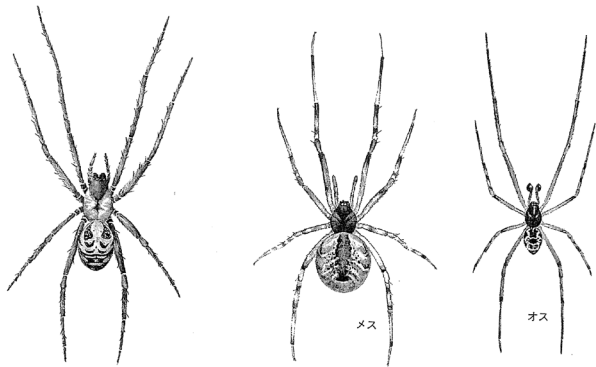


図2. サンロウドヨウグモ

図3. オオヒメグモ

## 2. クモはどんな所にいるか

(おもなクモの種類とクモのいる場所)  
(クモの体長は成体のおおよその大きさ)

洞窟内の壁のすき間、床の隅、鍾乳石の表面、石のすきまなど、洞内をよく見て歩くだけでも色んなクモを見つけることができる。これらのほか、洞床の石の下やその裏側、水辺の石の下を好んで生息するクモもいる。

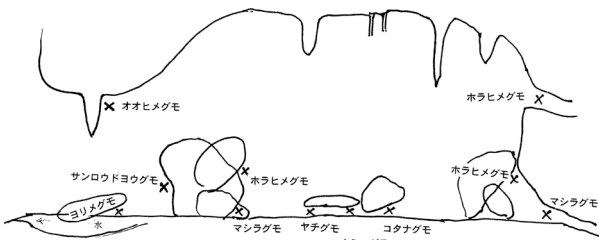
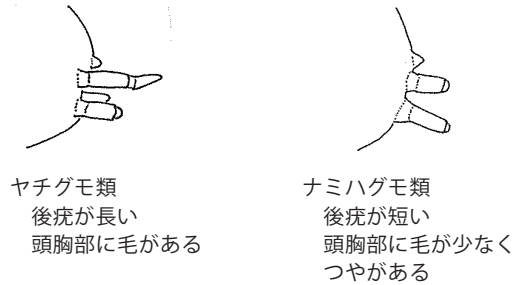


図1. 洞窟内でクモのよくいるところ



ヤチグモ類  
後疣が長い  
頭胸部に毛がある

ナミハグモ類  
後疣が短い  
頭胸部に毛が少なく  
つやがある

図4. ヤチグモ類とナミハグモ類  
腹部末端部側面

### (1) 洞口付近

好洞窟性の種が多く、薄暗いところを好む種や洞外からまぎれこんだ種で、おもにつぎのような種が見られる。

- ・比較的大きな円網——サンロウドヨウグモ(コガネグモ科)：体長10～14ミリ、茶褐色。洞外でも湿った薄暗いところに見られる。
- ・不規則網——オオヒメグモ(ヒメグモ科)：体長4～8ミリ。茶褐色。洞窟外でも崖地や建物の隅で

### (2) 壁のすき間や大きな石のすきま

- ・不規則網——ホラヒメグモ類 Nesticus 属(ホラヒメグモ科) 体長4～6ミリ。うすい茶褐色で腹部背面にうすい斑紋があるものが多い。足は細長い。洞窟性の代表的な種で、洞窟ごとに種が異なるものが多い。クモの糸はあまり目立たない。手で捕まえることができる程度のすきまに多い。48種が記載されている。
- ・小さな棚網——サラグモ類(サラグモ科) 体長2～2.5ミリ、網の下にかくれていることが多い。
- ・小さな白い棚網——マシラグモ類(マシラグモ科) 体長1.5～2.5ミリ。乳白色。足が細い。せまい隙間の白い皿状のアミの下についている。眼は6個で、